

N I E 学習効果調査 結果概要

(2024年7月)

日本新聞協会N I E委員会は7月11日、N I E (Newspaper in Education) に取り組む学校を対象に実施した標記調査の結果を発表した。この調査は、N I Eを実践する教員に、N I E実施後の教員自身の指導力、児童生徒の学習面の力の変化について尋ね、N I Eの効果を検証することを目的に、24年1～2月にかけて実施した。対象は、新聞協会の23年度N I E実践指定校、新聞協会が認定する実践経験が豊富なN I Eアドバイザーが在籍する学校などで、全国の小中高校581校から回答があった(小学校229校、小中連携10校、中学校185校、中高連携22校、高校・高等専門学校122校、特別支援13校)。

調査では、N I Eの実践により「教員の指導力」が向上したとの回答が9割を超えた。また「児童生徒の力」は、尋ねた全ての項目(「聞く力・話す力」「読む力」「書く力」「理解力・考えを深める力」「主体性」)で、伸びたと評価する回答が9割前後に上った。

N I Eの実践頻度と力の伸びの相関についても調べたところ、日常的に実践(週に1回以上)する学校は、実践頻度の少ない学校と比べて、教員の指導力、児童生徒の力ともに伸びたと評価する割合が多かった。N I Eタイム(新聞をスクラップして要約やコメントなどを書き込む活動)を実施し、かつ日常的にN I Eに取り組む学校も同様の結果となった。

調査結果の概要は以下のとおり。

(1) 教員の指導力の変化

N I E実施後に指導力が「大幅に伸びた」「伸びた」「少し伸びた」と答えた教員の割合は91%だった。自由記述からは、新聞を活用することで教材研究の幅が広がり、授業の充実や教科書の学習と実社会の関わりを意識した授業構成の工夫につながったとする回答が多く寄せられた。また、教員自身の知識・知見の深まりやメディアリテラシー能力の向上など、教員としての変化や成長に触れた回答も目立った。

(2) 児童生徒の力の変化

児童生徒の力の変化については、全ての項目で「大幅に伸びた」「伸びた」「少し伸びた」の合計が9割前後に上った(「聞く力・話す力」87%、「読む力」94%、「書く力」92%、「理解力・考えを深める力」93%、「主体性」90%)。

N I E実践による効果が特に期待される「読む力」「書く力」の記述回答を分析した。「読む力」では、読む速さや理解度が増し、要点をつかむ力、情報を検証・選択する力がついたと評価する回答や、初見の文章や長文を読むことへの抵抗感が薄くなったとする回答が多く寄せられた。「書く力」では、書くスピードが上がり、要約力、記事の内容を根拠に自分の考えを書く力、最後まで書き切る力がついたと評価する回答が多く見られた。

(3) 実践頻度と力の変化の相関

日常的にNIEを実践している学校と、そうではない学校との間の違いを調べるため実践頻度（「日常的に実践（週1回以上）」「月に1～2回程度」「2～3か月に1～2回程度」「年間に数回」）と力の伸びの相関関係を分析した。その結果、日常的に実践している学校は、教員の指導力、児童生徒の聞く・話す力、読む力、書く力、理解力・考えを深める力において「大幅に伸びた」「伸びた」と回答した学校の割合が、いずれも全体平均より5ポイント以上高くなった。紙の新聞を使ってNIEタイムに取り組んでいる学校についても、実践頻度の高い学校は、顕著に力の伸びを感じていることが分かる。

調査を監修した新聞協会の関口修司NIEコーディネーターのコメント

今回、581校という多くのNIE実践校から回答があった。延べ2千件近い自由記述の内容から、児童生徒の資質・能力の中でも、特に「読む力」「書く力」がどう向上したかが可視化され（「集計結果〔自由記述から〕」参照）、NIEで育成される児童生徒像がより明確になった。新聞を読み、コメントを書くというシンプルな学習活動の継続が、読み・書きの精度を高めると考える。

調査結果から、教員の指導力の向上にも注目したい。教員採用試験の倍率が低下し、教員の資質向上が課題となりつつある現状において、NIE実践が教員の指導力向上にも資することが明らかになったことの意味は大きい。「教員が日常的に新聞を読み、社会の出来事と関連させて授業を進める」ことの重要性を改めて確認することができたと言える。

以 上

N I E 学習効果調査 集計結果〔数値データ〕

(注) 構成比は小数点第1位以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある

◆1 教員の指導力、児童生徒の力の伸びの変化について

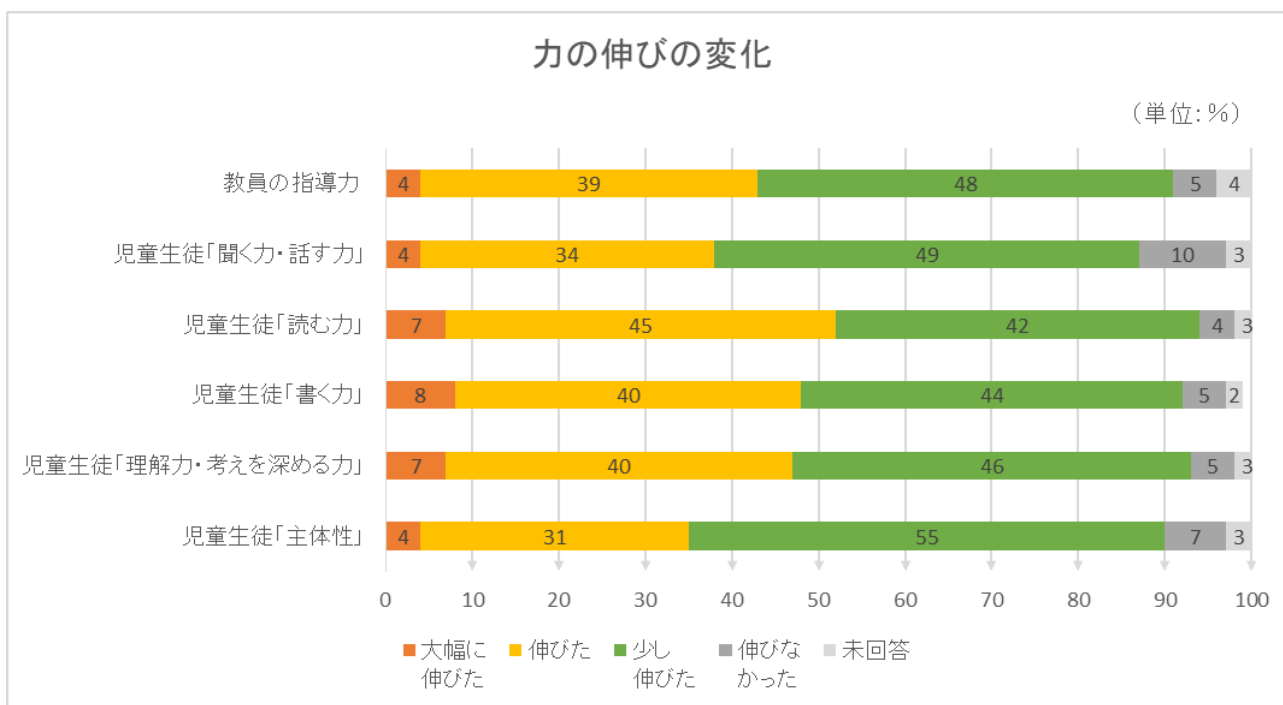
(単位：%)

<表>

		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
教員の指導力	(581校)	4	39	48	5	4
児童生徒「聞く力・話す力」	(581校)	4	34	49	10	3
児童生徒「読む力」	(581校)	7	45	42	4	3
児童生徒「書く力」	(581校)	8	40	44	5	2
児童生徒「理解力・考えを深める力」	(581校)	7	40	46	5	3
児童生徒「主体性」	(581校)	4	31	55	7	3

※「主体性」については、回答項目が「非常に主体的になった」「主体的になった」「やや主体的になった」「主体的にならなかった」

<グラフ>



◆ 2 実践頻度と力の伸びの相関

※「全体」の数値と比べて5ポイント以上プラスの差が出た数値を黄色に着色している

①教員の指導力

(単位：%)

		実践頻度				
		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	9	53	34	2	2
月に1～2回程度	(149校)	2	38	57	2	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	1	34	54	7	4
年間に数回	(123校)	1	25	60	11	2
頻度未回答	(39校)	0	31	33	5	31
全体	(581校)	4	39	48	5	4

②児童生徒「聞く力・話す力」

(単位：%)

		実践頻度				
		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	10	43	43	4	1
月に1～2回程度	(149校)	3	42	42	12	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	1	22	61	14	3
年間に数回	(123校)	0	20	66	13	1
頻度未回答	(39校)	3	26	26	15	31
全体	(581校)	4	34	49	10	3

③児童生徒「読む力」

(単位：%)

		実践頻度				
		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	14	52	31	3	1
月に1～2回程度	(149校)	5	53	40	1	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	3	45	46	5	1
年間に数回	(123校)	2	31	60	6	2
頻度未回答	(39校)	3	23	41	8	26
全体	(581校)	7	45	42	4	3

④児童生徒「書く力」

(単位：%)

		実践頻度				
		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	13	48	34	5	0
月に1～2回程度	(149校)	7	42	48	1	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	5	43	42	8	1
年間に数回	(123校)	2	28	62	6	2
頻度未回答	(39校)	8	26	33	13	21
全体	(581校)	8	40	44	5	2

⑤児童生徒「理解力・考えを深める力」

(単位：%)

		実践頻度				
		大幅に 伸びた	伸びた	少し 伸びた	伸びな かった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	12	47	36	4	1
月に1～2回程度	(149校)	7	40	48	3	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	3	36	57	3	1
年間に数回	(123校)	1	35	55	7	2
頻度未回答	(39校)	3	23	36	13	26
全体	(581校)	7	40	46	5	3

⑥児童生徒「主体性」

(単位：%)

		実践頻度				
		非常に 主体的に なった	主体的に なった	やや主体 的になっ た	主体的に ならな かった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(196校)	8	41	44	6	1
月に1～2回程度	(149校)	3	27	62	7	1
2～3か月に1～2回程度	(74校)	4	24	58	11	3
年間に数回	(123校)	2	24	66	6	2
頻度未回答	(39校)	0	28	44	8	21
全体	(581校)	4	31	55	7	3

◆3 NIEタイム（紙）に取り組んでいる学校の実践頻度と力の伸びの相関

①教員の指導力

(単位：%)

		実践頻度、NIEタイム（紙）				
		大幅に 伸びた	伸びた	少し 伸びた	伸びな かった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(165校)	9	50	36	2	2
月に1～2回程度	(112校)	3	38	57	1	2
2～3か月に1～2回程度	(56校)	2	29	57	7	5
年間に数回	(76校)	1	26	55	14	3
頻度未回答	(11校)	0	45	36	9	9
NIEタイム（紙）未実施	(161校)	1	39	48	5	7
全体	(581校)	4	39	48	5	4

②児童生徒「聞く力・話す力」

(単位：%)

		実践頻度、NIEタイム（紙）				
		大幅に 伸びた	伸びた	少し 伸びた	伸びな かった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	(165校)	8	45	42	4	1
月に1～2回程度	(112校)	4	42	43	11	1
2～3か月に1～2回程度	(56校)	2	21	64	11	2
年間に数回	(76校)	0	26	57	16	1
頻度未回答	(11校)	0	36	18	36	9
NIEタイム（紙）未実施	(161校)	4	25	53	11	7
全体	(581校)	4	34	49	10	3

③児童生徒「読む力」

(単位：%)

実践頻度、NIEタイム（紙）		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	（165校）	13	53	30	2	1
月に1～2回程度	（112校）	6	49	42	2	1
2～3か月に1～2回程度	（56校）	4	41	48	5	2
年間に数回	（76校）	1	33	59	5	1
頻度未回答	（11校）	0	27	64	9	0
NIEタイム（紙）未実施	（161校）	6	41	42	4	7
全体	（581校）	7	45	42	4	3

④児童生徒「書く力」

(単位：%)

実践頻度、NIEタイム（紙）		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	（165校）	13	50	33	4	0
月に1～2回程度	（112校）	5	40	51	2	2
2～3か月に1～2回程度	（56校）	7	39	45	7	2
年間に数回	（76校）	1	30	62	4	3
頻度未回答	（11校）	0	27	55	18	0
NIEタイム（紙）未実施	（161校）	9	37	42	7	5
全体	（581校）	8	40	44	5	2

⑤児童生徒「理解力・考えを深める力」

(単位：%)

実践頻度、NIEタイム（紙）		大幅に伸びた	伸びた	少し伸びた	伸びなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	（165校）	10	48	36	4	1
月に1～2回程度	（112校）	9	40	46	4	1
2～3か月に1～2回程度	（56校）	4	32	59	4	2
年間に数回	（76校）	0	39	51	8	1
頻度未回答	（11校）	0	27	55	18	0
NIEタイム（紙）未実施	（161校）	6	35	48	5	7
全体	（581校）	7	40	46	5	3

⑥児童生徒「主体性」

(単位：%)

実践頻度、NIEタイム（紙）		非常に主体的になった	主体的になった	やや主体的になった	主体的にならなかった	未回答
日常的に実践（週1回以上）	（165校）	7	42	45	5	1
月に1～2回程度	（112校）	4	26	61	8	2
2～3か月に1～2回程度	（56校）	5	25	55	13	2
年間に数回	（76校）	1	22	67	7	3
頻度未回答	（11校）	0	27	55	18	0
NIEタイム（紙）未実施	（161校）	4	29	57	4	6
全体	（581校）	4	31	55	7	3

N I E 学習効果調査 集計結果〔自由記述から〕

教員の指導力、児童生徒の読む力、書く力について、N I E 実践後にどのような変化があったのかを自由記述回答から分析し、N I E で身につく力を可視化しました。

【教員の指導力】

- ・新聞の教材化を考えることで、深い教材研究や創意工夫につながった
- ・教科・単元での目的にかなう効果的な活用を考えることで、授業の構成力がついた
- ・タイムリーな事象を扱うことで、学ぶ意欲や態度を育むことができた
- ・社会情勢と教科の学習を結びつけた指導を意識するようになった
- ・進路指導などで、生徒の興味関心分野の情報を的確に提供できるようになった
- ・アンテナを立てて情報収集に努めるようになった
- ・現代社会への知識が深まり、視野や知見が広がった
- ・メディアリテラシーに対する意識が向上した
- ・教員自身が日常的に新聞を読むようになった

【児童生徒の読む力】

- ・初読の文章でも内容を理解できるようになった
- ・音読のスピードや、一定時間に読む量・速さが向上した
- ・集中力がつき、長文でも読み切ることができるようになった
- ・語彙が増え、内容を正しく理解することができるようになった
- ・必要な情報を取り出す力、要点を押さえる力がついた
- ・複数の情報を関連付けながら読めるようになった
- ・粘り強く、最後まで読む力がついた
- ・長い文章への抵抗感が薄くなった

【児童生徒の書く力】

- ・書くスピードが上がり、分量も増えた
- ・要約や感想を限られた字数、時間でまとめられるようになった
- ・小論文やリポートを時間内に書けるようになった
- ・読み手を意識して分かりやすく書けるようになった
- ・情報を取捨選択して書く力がついた
- ・意見文などで、構成を工夫して書けるようになった
- ・テストなどで文章を最後まで書き切る児童生徒が増えた
- ・書くことへの抵抗感が薄くなった